

発言者	内 容
事務局	開催宣言、総務私学局長挨拶
事務局	委員紹介及び定足数確認
副委員長指名、会議の公開・非公開	
崎元委員長	<p>崎元委員長が、副委員長として元山委員を指名することを諮ったところ、他委員の了承が得られた。</p> <p>引き続き会議の公開・非公開についての検討。</p> <p>会議次第により公開しても支障がないと思われる旨説明。</p> <p>他委員の同意があり、本日の会議は公開することに決定。</p>
議題（１）平成 25 年度のスケジュールについて	
崎元委員長	<p>それでは、議事に入ります。</p> <p>議題（１）「平成25年度のスケジュール」について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p><b>資料 1</b> により「平成25年度のスケジュール」について説明。</p>
崎元委員長	<p>ありがとうございました。平成25年度の評価委員会においては、年度評価のみを実施しますので、2回の開催が見込まれるとのことでした。</p> <p>今年度のスケジュールについて、委員の皆様よろしかったでしょうか。</p>
全委員	<p>（同意の声あり。）</p>
議題（２）平成 24 年度財務諸表承認について	
事務局	<p><b>資料 2-1</b>～<b>資料 2-4</b>により「平成24年度財務諸表承認」について説明。</p> <p><b>補足説明資料</b>の 1、2 ページにより、損益計算書と決算報告書の差異について説明。</p>
崎元委員長	<p>ただ今の事務局の説明にありましたように、議題の（２）に関しましては、知事が承認をするに当たって、当委員会の意見を求めるものであります。</p> <p>提出されております資料をもとに、様々な角度、観点から御検討、御審議いただき、財務諸表の承認に関して、当委員会としての意見をまとめたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>何か、御意見、御質問があればお願いします。</p>

元山委員	資料2-2の財務諸表1ページについて、流動資産の「未収学生納付金収入」について、未収学生の収入管理をどのようにしていますか。徴収不能引当金で約200万円計上してありますが、200万円については完全に放棄するつもりですか、徴収不能引当金に計上した200万円も管理していますか。
事務局	未収学生納付金については、資料2-2の1ページのとおり、1016万円の未収があったと報告を受けています。このうちの202万円については、徴収不能引当金として計上しています。未収学生納付金1016万円から202万円を除いた分が814万円あります。これについては、入学金徴収猶予に係る未収分が807万円あり、平成24年度授業料に係る未収分が69千円あります。この2つを合わせて814百万円となりこれが徴収不能引当金以外の未収金となります。こちらについては、6月28日まで徴収済みと法人から報告を受けています。それから、202万円はどのように発生したかということですが、こちらについては授業料未納により除籍した分を計上しています。
元山委員	わかりました。また、資料2-2の1ページ流動資産の「受託研究未収金」及び「受託事業未収金」について、科目別明細はありませんが、これについては健全な未収金と理解してよろしいですか。
事務局	受託研究未収金の内訳は、熊本県、水俣芦北振興財団、環境省、玉名市からの受託研究が未収になっています。 また、受託事業未収金については、熊本県、宇土市、財団法人北九州学術推進機構、防衛省、阿蘇市などからの分です。
元山委員	わかりました。
崎元委員長	未収金はいずれ回収されるのですか。
事務局	決算時点では未収でしたが、現在は解消していると法人から聞いています。
清家委員	資料2-4 1ページ、「その他未収金」は、「受託研究未収金」、「受託事業未収金」、「その他未収金」の合計ですが、前年度と比較すると金額が多く残っているようです。これは、事務手続きの遅れによるものですか、理由を教えてください。
事務局	環境省や熊本県からの受託研究の精算が年度を越えて行われたことから未収となっています。
清家委員	受託事業の未収が前年度よりも多いですが、主な理由として大学側の精算手続きの遅れなどに起因しているものではないですか。

事務局	大学の事務手続きの遅れではなく、委託者の事務手続きの都合によるものです。
清家委員	授業料、入学金及び検定料の収益が上がっていて素晴らしいと思いましたが、教育研究支援経費や教員の人件費は前年度に比べて下がっています。これにより教育の質が低下することがないように対応されていると思いますが、どういう理由で経費が下がっているか分析されていますか。
事務局	人件費の削減は、教員が2名退職したことによります。
事務局	教育研究支援経費は、図書館や中央コンピュータ室等の補助機関の経費で、平成23年度に大きな事業を行い一時的に増えましたが、平成24年度は通常ベースに戻ったと聞いています。
清家委員	わかりました。ところで、教員2名の補充はされていますか。
事務局	退職した教員2名については、当面は非常勤教員で対応していますが、大学で公募により採用の準備を進めています。
清家委員	資料2-2]13ページに補助金等の明細がついています。大学改革推進等補助金1248万円に対して収益が1066万円計上されています。その残181万円、全体金額の15%程度になりますが、それを返還されるのは、実際にやろうとしていた事業ができずに返還されるのでしょうか。
事務局	学生GPの関係で、概算で交付を受けていたものの精算による返還です。大学からは様々な理由によりできなかった事業があり精算時点で返還となったものと聞いています。
山口委員	資料2-4]2ページ、当期総利益1億5百万余となっています。教育の質の向上のために支出すべきものはなかったのかと感じていますが、いかがでしょうか。
崎元委員長	当期総利益については次の議題で事務局からの説明を受けて審議したいと思いますが、どうでしょうか。
山口委員	わかりました。
崎元委員長	では、事務局から説明をお願いします。
議題(2)平成24年度財務諸表承認について(利益処理承認)	
事務局	資料2-5]により「平成24年度利益処理承認」について説明。
崎元委員長	先ほど山口委員から1億円余りの利益は妥当かという指摘もありました。その部分も含めて説明があったと思います。委員の皆さんの御意見・御質問をお願いします。

山口委員	先ほどの説明の中で、目的積立金の執行は高額備品購入という説明でしたが、 <u>資料2-5</u> 4ページの目的積立金の執行状況についてみると、高額という説明だけでは掌握できないと感じます。支出については、会計的な制限などがあると思いますが、目的積立金の使用について制限はありますか。教育の質の向上等目的はわかりますが、こういったものに使用可能なのか、決まりを教えてください。
事務局	中期計画の中に、剰余金の使途について定めています。教育研究の質の向上、組織運営及び施設設備の改善に充てるということで、法人では、主に備品の購入に充てることにしているようです。
山口委員	では、 <u>資料2-5</u> 4ページに記載されている内容は主に備品ということですか。
事務局	前中期目標期間繰越積立金が2億5000万程度ありますが、第2期中期目標の6年間で計画的に備品等を購入していく予定としています。その他、情報システム関係の整備を計画しており、その費用が億単位かかります。そういったものに充てられる予定です。
山口委員	備品購入やシステム整備そしてグラウンド整備などにも使われていますが、使途としてはかなり自由ということですか。
事務局	はい。教育研究の質の向上や組織運営及び施設設備の改善に該当するものであれば、自由に使えます。
山口委員	毎年度、この承認の前に教育や研究に必要なということで使用することはせずに、一旦目的積立金に積み立てて計画的に使っていくという考えが運用から見受けられますが、このような理解でいいですね。 また、約1億円の当期総利益については、前年度と比較すれば高いと感じました。
事務局	全体の運営経費が23～24億円の中で、1億円の当期総利益というのは、経営状態としては悪くないと考えています。今後、億単位の支出を予定していることを踏まえ、法人が節減に努めた結果、1億円の利益が生じたということのようです。この1億円については、今後、中期目標期間の中で計画的に使っていくことになります。
山口委員	情報システムの整備がかなり高額だということで、計画的に皆さんも運用されていることということは、事務局も認めるということですね。
事務局	はい。情報システムの整備には2億円程度かかると聞いています。
山口委員	わかりました。
崎元委員長	今、事務局のスタンスについて説明を受けましたが、必要があればこの後の業務実績報告書ヒアリングの中で直接法人にお考えについて質問して頂いても結構です。

元山委員	大規模な改修などについては、国等から予算が付くのですか。財務諸表を見ると、年間で2億5000万円程度の減価償却があるようですが、随分と償却費が大きい。今後、施設の補修も出てくると思いますが、それを、毎年のキャッシュフローの中で運用していくのは大変だろうなと思います。
事務局	文学部棟等が古くなってきましたので、今後長期的には建て替えが見込まれます。その場合は、県で予算措置等を検討することになります。現在の建物がある間は減価償却をせずに、資本剰余金が膨らんでいくという図式がしばらく続きます。2年程前にありました耐震工事の際は、国庫補助金で2億円程度かけて改修を行いました。 また、平成25年度の予算からは、年間7000万円程度修繕費を計上しています。あくまで修繕費ですので、減価償却とは関係ありません。
崎元委員長	よろしいでしょうか。他には御意見等ありませんか。 今の審議は、最初の審議が財務諸表の承認、そこから出てきた1億円余の当期総利益を目的積立金として利益処分することを承認するという2点についてです。委員会として特に意見を付すことなく認めるということによろしいでしょうか。
全委員	(同意の声あり。)
崎元委員長	それでは、財務諸表及び利益処理の承認については、共に「適当である」ということを委員会としての意見としたいと思います。 以上で議題(2)についての審議を終わります。
<b>議題(3) 平成24年度業務実績報告書に係るヒアリング</b>	
崎元委員長	次に、議題(3)の「平成24年度業務実績報告書に係るヒアリング」について、議題3の資料について、事務局から説明をお願いします。
事務局	<u>資料3-1</u> ～ <u>資料3-3</u> により「平成24年度業務実績評価」について説明。
崎元委員長	ありがとうございました。それでは、 <u>資料3-2</u> に基づきこれからヒアリングを行います。 まず、 <u>資料3-2</u> 平成24年度の業務実績報告書の内容について、公立大学法人熊本県立大学から、説明をお願いします。
法人 (理事長他)	五百旗頭理事長 : 挨拶 古賀学長 : 全体の概要 古賀学長 : 教育研究実績 岡本事務局長 : 業務運営の改善及び効率化ほか ※ <u>資料3-3</u> により、法人自己評価の概要についても説明
崎元委員長	それでは、委員の皆さんから何か、御意見、御質問がございましたらお願いします。

元山委員	<p>説明ありがとうございました。</p> <p>「有明海・不知火海流域圏における環境共生型産業に関する研究について」、大変興味を持っていますが、海につながる山の問題、河川の問題、それから食物連鎖を通じた全体の豊かさ。地域産業が非常に苦勞する中で環境改善に基づく地域産業の育成はとても大事だと思います。是非、広範囲に深く研究を行い、地域産業にヒントを与えてくれるような研究を心待ちにしたいと思います。</p> <p>もう1つ、英語の運用能力の強化について、ポイントになるのはどういう指導をされるのか。指導者の問題があると思います。特にこれについて、こういった計画をされているのか、教えていただきたいと思います。</p>
古賀学長	<p>流域圏の課題について、非常に期待を持っていただき感謝申し上げます。期待に応えられるよう環境共生学部環境資源学科が中心となって進めていきます。現在、山・森林、農業、河川、水産、海域にわたる広い範囲で研究が進んでいます。以前から活発に研究を進めてきましたが、この1年だけで、更に若手研究者が海外で発表したり、論文をまとめるといった段階まで伸びてきています。これについては、非常に注目して支援していきたいと考えています。</p> <p>また、この研究は時間のかかるものでして、こういった息の長い研究も必要だと考えています。</p> <p>この他、アサリの回復を目指した研究や農業、熊本県のフードバレー構想に沿った農業の高次化、食品加工まで含めたもので貢献できないかということも考えて進めています。</p> <p>また、英語教育については、総合管理学部を設立した20数年前から英語の運用能力、実際に使える英語について力を入れようとしてきました。ただ、この分野は専門家が少なく、教材とするテキストも少ない状況です。平成25年度に、試行的に10日間の合宿を行います。とにかく中学レベルの文法・語彙・単語があればなんとか生活できるという自信をつけさせたいと考えています。また、熊本県教育委員会が中学生向けにCDを作っていますが、これがよくできています。英語を中学3年間できちんとやっておけば生活には困らないのではないかと英語の先生方と話していますが、大学でやるならもっと新しい教材等を開発できるのではないかとこの考えから、色々と発展性のあるプロジェクトとして進めていきたいと考えています。</p>
山口委員	<p>「有明海・不知火海流域圏における環境共生型産業に関する研究について」に関連してですが、県議会としても有明海・八代海の再生などについて、環境対策特別委員会でも取り上げて議論しています。有明・八代海については国や県の研究機関においても様々な研究が行われており、海藻等も研究しています。このような過去の知見も活かし、より実証性のある実態に即した取組をやって欲しいと思いますが、プロジェクトチームはどのような形で組織されていますか。</p>

古賀学長	<p>学内では、環境共生学部環境資源学科の教員ほぼ全員が関わる形でプロジェクトチームを作っています。また、それぞれの研究者が他大学や研究機関と共同事業を進めるといった形で行っています。</p> <p>有明海の水質調査や底生生物については佐賀大学を代表校として、有明海をめぐる長崎大学、九州大学、本学の4つの大学でチームを組んで調査を進めています。また、最近では、全国的に、有明海、八代海は良い研究フィールドになるとして鹿児島大学も加わりたいといった話もあります。2年前から広島大学の水産学部が観測船を有明海に回し、その際に本学の研究者も同乗して調査をするといった大学間での共同研究のきっかけにもなっています。</p>
山口委員	<p>熊本大学の滝川教授も海域の干潟などについては知見を蓄えておられます。科学的に立証されたデータに基づき様々な事業計画を作っていただきたいと思っていますが、有明海・八代海の再生にはそういった知見が積み上げられておらず、具体的な事業が展開できていないという状況です。このプロジェクトはしっかりと取り組んで欲しいと思います。</p>
野田委員	<p>先ほどもありました資料3-2 22の英語教育について、取組が着手できていない理由についてお聞かせいただきたい。</p>
崎元委員長	<p>少し補足します。目標は4年間の向上率の学年平均10%以上を学科目標とするということですが、最初の入学時点あるいは1年次の基準をどうされるのかというのが明らかになっていないので、そういったことも含めてお答えいただきたい。</p>
古賀学長	<p>この英語能力については、あくまでもTOEICが1つの指標であるわけですが、英語英米文学科だけでなく、全学的にもTOEICで700~800点を高校時代に取っていて能力を備えている学生についてはBasic English I、IIは免除するといった運用を行っています。</p> <p>特に英語英米文学科では1年次、3年次にTOEICの模擬試験を受験させ、1年次については、報告の中には書いていませんが、平均で500数10点に換算されるようです。平成24年度は始まったばかりで1年生だけの話になるのですが、TOEICがいいのか、またTOEICはIPや模擬試験などもあります。その中でどういうものを採用するのか、TOEFLやオックスフォード検定はどうかといったいろんな議論があります。最近では英語検定協会が上智大学と一緒に日本で英語能力をきちんと評価できるような試験を作ろうという動きもあり、本学も協議会に加入し一緒に議論していくことにしています。そういうものを含めて途中経過だということですが、学内では着手したという認識です。ただ、まだ課題が残っており、現在進行中であるにご理解いただきたいと思います。</p>
崎元委員長	<p>それでは、向上率が出ないということでしょうか。目標を測る方法について議論されているということは、どこから始めるのでしょうか。計画は平成24年度から始まっていると理解しています。</p>
古賀学長	<p>平成24年度の入学者は、現在2年生になっていますが、1年次でほぼ全員がTOEICの模擬試験を受験しています。2年次はTOEIC IPを受験させます。これらのスコアから向上率は測れると考えています。この結果を基に個別に学生の指導にあたるようにしています。脱落しなければ必然的に10%向上は達成できると思います。この10%が妥当かということも含めて検証を進めていきたいと考えています。</p>

<p>五百旗頭理事長</p>	<p>今の説明にあったように、TOEIC は英語をマスターしていくうえでの1つの指標ではあるのですが、昔はこういったものではありませんでした。</p> <p>耳と口を使っていくということはグローバル化した世界でやっていく上でかなり多くの人に役に立ちますが、これも1つの指標でしかありません。少し荒っぽく言えば TOEIC が何点だろうと用を足せばいいじゃないか、世界の流れはそうで、発音がおかしいとか文法がおかしいとか三人称単数はどうなっているのかというのは気にしません。けれど、そこで内容を理解し、やり取りする能力を付けるために進めようとしているのが、英語しか使わない合宿です。生活、コミュニケーションのためにネイティブの方たちがクラスの指導に当たるようなことをしていきたい。こういう機会を県立大学に行けば体験できる、英語に対する構えや抵抗感をなくし英語を使って国際的な行き来ができるようになる、そのことがむしろ学生にとって非常に効果的なのではないかと考えています。TOEIC なども意味のあることですが、そこに合宿を加え、英語合宿をやるとなったら、学生が自らいろんな設備を使いながら英語に取り組むといった相乗作用も期待できると考えています。</p>
<p>崎元委員長</p>	<p>御主旨は十分に理解しているつもりですが、評価委員会のあり方としては、県立大学から計画を提出されて、その計画がどの程度実施されたかを評価せざるを得ません。そのため、この中期計画について、修正の必要があれば修正を、なんらかの学科目標の10%向上について示せるというのであればそのまま結構です。その点をご検討いただきたい。</p>
<p>清家委員</p>	<p>資料3-2 52について、外部の人材を活用した業務改善の推進ということでデロイトトーマツコンサルティングと契約し業務の可視化を進め、報告書を取りまとめられたとのことですが、見直しの結果、どのような業務改善の案が提示され、実行した場合の節減額について教えていただきたい。</p>
<p>法人</p>	<p>報告書ではシステムの改善をするということが結果として導かれました。手作業で行っていたものをシステム化し業務の効率化を図るところもあります。それ以外に学内にある情報基盤を外部のデータセンターに設置することも含め、平成25年度から平成27年度の3カ年で行っていく予定です。将来的には、約1億円程度の軽減が見込めるという試算になっています。</p>
<p>清家委員</p>	<p>1億円の軽減が図れるなら素晴らしい取り組みだと思います。</p> <p>続けて、資料3-2 63についてお尋ねします。個人情報へのソフト面での対策として外部講師による研修を実施されています。3月22日に行われて、参加者数が29名となっています。この29名は実際に参加すべき人数に対して多いですか、それとも少ないですか。</p>
<p>法人</p>	<p>参加者数の29名は少ないと思います。</p> <p>これについては、当日研修に参加できなかった教職員に対しては研修資料等を配布し、少なくとも業務に関わる者については習熟をするということに対応しています。</p>
<p>山口委員</p>	<p>資料3-2 35について、CPDプログラムの中で、自治体職員等CPD講座が全5回行われています。が、参加者が県内の市町村の数よりも少ない状況のようです。また、熊本大学でも自治体職員に対する研修が行われていますが、このような状況はどのように分析されていますか。</p>



古賀学長	<p>CPD研修は、専門職能研修のプログラムですが、このプログラムは、平成24年度で2回目であります。この中で、自治体職員のCPDについては、全5回開催とし、5回すべて受講できる方を対象として上限を40名とし募集を行いました。参加人数が40名を超えると指導が行きわたらないため、上限を設定しています。この自治体職員等CPD講座は好評でしたので、平成25年度も開設し、継続していきたいと考えています。</p>
山口委員	<p>プログラムの充実もすごく重要だと思います。自治体には勉強しようという意欲に燃えている職員が多くいますので、そこに資するような内容を提示していただきたいと思います。</p> <p>続いて、新たに「減災型地域社会リーダー養成プログラム」に取り組まれているようですが、どのような人材を養成されるのか、また、大学教育の改革につなげるようですが、どのようにされるのか教えていただきたい。</p>
古賀学長	<p>資料3-2 ③の「減災型地域社会リーダー養成プログラム」については、本学の教養教育の中で展開するものと、専門教育の中でやるもの、あるいは、大学院の中で専門的に人材の育成を行うものと、いくつかのレベルがあると考えています。最初の教養教育で熊本県立大学の学生全員が「市民性の涵養」、広い知識、博愛精神をもって困っている人に手を差し伸べる。倒れている人がいたら、立ち止まり適切な救急法が行えるようなところも含めた人材を育成する計画を作っています。</p> <p>大学の目の前に日赤病院がありますので、日赤病院と連携することで救急措置法などもプログラムの中に組み入れる予定です。あるいは、学生ボランティアの組織化も可能ではないかと考えています。</p> <p>上位のプログラムでは、五百旗頭理事長の様々な経験を活かしてプログラムを作っていきたいと考えています。</p>
五百旗頭理事長	<p>阪神淡路大震災で、生存救出された8割は共助、家族と近所の人によって救出されており、そういった身近な人たち、コミュニティーの人たちに救われています。</p> <p>災害時に県立大学で学んだ人が地域の中心となって人々の命を支える。政治家はリーダーになることを自覚的にやっていますが、普通の職場にいる人もリーダーになり得ます。そのモデルとして、阪神淡路の震災で感銘を受けたのは、神戸商船大学に100人ほどの寮生がいて、その寮の学生リーダーが3～5人単位のグループを作り、組織をつくって100人以上の人を生存救出しました。こういう人がいるかどうかで、その地域や人の運命が変わることがあります。やり方、知識、技法を身に着けながら志を鍛えるといったことが、減災社会を作っていく上で大事だと感じています。どの程度、どういった知識を持たせるかと合わせて志を作るということをやりたいと考えています。</p>
山口委員	<p>理事長の知見は、我々よりも深いと思いますし、政治家として「減災」という言葉について、どういう定義だろう、皆さんにどう理解してもらえばいいのだろうと政治家同士で問答し政策紙にまとめたことがあります。</p> <p>熊本県立大学における「減災」の定義を明確にして、プログラムや人材育成に活かしていただきたいと思います。</p>

<p>五百旗頭理事長</p>	<p>我々ができることは、少しでも災害の被害を少なくすること、少なくとも人が生き延びられることをするべきだと考えています。</p> <p>生き延びるためのハードの整備だけではなく、早くに危険を察知して逃げ、命を守る。災害はどこでもありうるので、災害が起こったときは全国でサポートする、そういった形で復旧を図るような在り方を考えなければならないと思います。災害は完封することはできませんが、減災は果てしなくできるという風に考えたいと思います。</p>
<p>元山委員</p>	<p>資料3-2 55について、外部資金の獲得について積極的に取り組むということですが、これは26の項目にも関連していると思いますが、各学部長は科学研究費補助金への応募に向けて取り組んだ結果、応募率が98.8%だったということで、その結果として、55(26ページ)の上のように、補助金が前年度に比べて約2000万円増えているといった成果が出ているということで、大変努力された結果だと思えます。</p> <p>このヒアリングの前に財務諸表について議論した際に、事務局より、資料2-4 5ページ、学生数が熊本県立大学と同規模の大学10校と比較した資料がありました。この中で、学生数は、3番目に多いのですが、運営費交付金は下から9番目で少なく、ただし収支はきちりと取っておられて、非常に収支の努力は行っておられて堅実な経営だと言えます。</p> <p>ところが、一方で支出の項目として学生経費というのがあり、これが、10校中10番目ということで、学生経費はどういう項目かと考えた時に学生に対する費用、コストと仮定するならば、県立大学は学生に対する費用を惜しんでいるという風に見えます。</p> <p>自主財源を60%強で運営されており、かつ黒字ということで大変立派な経営ではありますが、一方で補助金を確保することで教育の質を上げられるのではないかと感じています。55の項目については、今後も引き続き力を入れるべき項目ではないかと感じています。</p>
<p>古賀学長</p>	<p>学生経費については、構成する学部等が異なっていますので単純な比較はできません。例えば、看護系の学部があると実習費、その他の費用で跳ね上がります。</p> <p>そのため、大学内でも様々な分析の比較表などを作りますが、単純に比較はできないと実感しています。本学の場合は、社会科学系の総合管理学部、人文科学系の文学部が多くを占めるため、あまり学生経費がかからない学部構成で授業料収入を得ています。そして、特に学生に対するサービスを怠っているということではなく、大学の経費の6割が教職員の人件費ですので、そこはきちんと教育を行っていることは間違いありません。</p> <p>また、理系の環境共生学部の設備等が他大学と比べて貧相かということもありません。他大学が羨むほどの施設が整備されており、限定的に予算を執行している状況であるをご理解ください。設備の改修等についてもそれなりの経費をかけて行っています。</p> <p>きれいなキャンパスというのが本学の売りでもありますので、それほどみずぼらしいものではないと考えております。</p>
<p>元山委員</p>	<p>研究補助金については、教育のレベルに関わってくるものですか。</p>
<p>古賀学長</p>	<p>補助金については、様々なものがあります。</p> <p>例えば、文部科学省の大学教育改善に向けた補助金は、用途を限定されません。その他、研究経費や調査のもの等ありますが、用途がはっきりと指定されているもの、されてないもの等様々です。</p>

元山委員	ありがとうございました。
崎元委員長	<p>神戸市外大が熊本県立大学とよく似た学生数と構成になっており、金額的にも近いと思います。学生経費の内容の上げ方が各大学で均一かどうか不明ですが、おおよそよく似ているのかなと思われま</p> <p>す。  [55]は教育に関する補助金として文部科学省がやっ</p> <p>ていて、年々文部科学省の予算が付かなくなっ</p> <p>てきていますが、額自体はそんなに大きいものでは</p> <p>ありません。1大学当たり、数百万程度です。や</p> <p>らうと思えば大学独自でも取り組めなくはない</p> <p>額だと言え</p> <p>ると思います。  また、[26]は科学研究費補助金の申請率の向上</p> <p>ということで、従前、中期計画に上がって</p> <p>いて、厳しい評価をしていました。今回は、非</p> <p>常に頑張られて、ほぼ100%に近づけられて</p> <p>いると思</p> <p>います。大学としては、基本は自分の研究費は</p> <p>外部資金を取</p> <p>ってきて自分でやりなさい、研究費まで公費を</p> <p>使</p> <p>ってするものではないというスタンスで取</p> <p>組まれており、よく検討されていると思</p> <p>います。</p>
清家委員	<p>[資料3-2] [17] について、その他のアンケートの見直しや、[60] の研究者情報のデータベース化が遅れている件については、人員不足によるものですか。どういう理由で遅れているのか教えていただきたい。</p>
古賀学長	<p>授業評価アンケート、その他のアンケートについては、従前やってきて、もう少し教育の効果が測れるように分析しようと考えています。教育改善に向けた学修評価を文部科学省の補助事業でやっていますので、それと並行して平成25年度に取組みたいと考えています。</p> <p>それから、ホームページでの研究者情報については、特に外国語版についてフォーマットや発信内容について検討しているところです。</p>
清家委員	<p>[17]については、平成25年度に取組んでいる教育改善に向けた学修評価の開発の中でやることにしたということですね。</p> <p>では、[60]については、B評価としているのはなぜでしょうか。</p>
古賀学長	<p>昨年度を振り返って、もう少しできたという思いを込めてB評価としています。平成25年度も引き続き実施するという</p> <p>ことで厳しく自己評価している</p> <p>ところ</p> <p>です。</p>
山口委員	<p>[資料3-2] [13]の管理栄養士の合格率についてですが、こちらは頑張っ</p> <p>ていただきたいのですが、この国家試験に合格した管理栄養士の就職の状況は</p> <p>どう</p> <p>でしょうか。</p>
古賀学長	<p>食健康科学科は定員40名。管理栄養士の養成校として定員管理を厳しく行っている学科</p> <p>として、毎年</p> <p>ほぼ40名が卒業</p> <p>します。この学科は管理栄養士であろうとなかろうと就職率は非常に高く、毎年</p> <p>ほぼ100%をキープ</p> <p>しています。就職先としては食品関連会社や管理栄養士の資格を持って病院や給食</p> <p>関係、養護施設等に就職</p> <p>しています。  ただし、本当に管理栄養士として求められているのはそのうちの3~4割</p> <p>程度、12~15人程度が管理栄養士の資格を活用して仕事についている</p> <p>状</p> <p>況</p> <p>です。そうは</p> <p>い</p> <p>つても国家資格</p> <p>ですので、熊本県内外から多くの受験生が</p> <p>集ま</p> <p>ってくるという</p> <p>状</p> <p>況</p> <p>です。</p>
山口委員	<p>合格率については頑張ってください。</p>

古賀学長	はい。そこは肝に銘じて指導していきたいと考えています。
崎元委員長	<u>資料3-2</u> <u>9</u> 、学士と修士の一貫教育の議論をしていますが、大学院への進学率が5、6割程度の国立大学の場合6年一貫教育を学科や専攻によっては考えます。しかし、県立大学は、それほど内部進学者は多くないので一貫環教育をやってどういう意味を持つのか少し疑問に感じるのですが、いかがでしょうか。
古賀学長	環境共生学部とその大学院については、現在、学部からの進学率が学科によっては3割程度あり、他の学科についても15%程度あります。その中で6年の一貫教育というのは技術的なレベルを上げるために必要だと感じているところから、一貫教育について議論を始めたところです。 一方、総合管理学部とアドミニストレーション研究科については、社会科学系はあまりメリットがないため、アピールできるような内容を考えながら一貫教育を議論してもらっています。
崎元委員長	6年で完成するイメージが外部に出ると、学部卒業生はどうなんだということになりかねないので、配慮して議論してください。 また、 <u>17</u> のアンケートですが、従来ポートフォリオをされていたと思いますが、これとの関係はいかがでしょうか。ポートフォリオを個人別に充実させていくという方向もありうると思います。それと、今回のアンケート類との関係はどのように考えていますか。
古賀学長	これまで学修記録を学生自身で記録させるためにポートフォリオを活用してきましたが、活用率が5~10%程度ということで低い状況です。動機付けをさらに進めてはいますが、アンケートとのリンクはこれからの検討課題としたいと考えています。
崎元委員長	<u>23</u> キャップ制については、私も警告をしました。「授業時間外での学生の主体的な学修を促すため」というのは文部科学省が今一生懸命言っています。1日の学修時間数について、日本の学生は諸外国の学生に比べて非常に少ないというデータがあり、今回、副学長もいらっしゃるので、学修時間を確保するための取組について教えていただきたい。
半藤副学長	現在、キャップ制の点検を始めているところですが、ご指摘のありましたように、いかに授業外での勉強時間を確保するかということが検討課題になっています。 単に授業時間外に勉強の時間を確保させればよいということではなく、到達目標となる学力をつけさせるためにはどれほどの学修時間が授業外に必要なかということが本来の課題ですので、時間を確保するための方策を検討するだけでなく、どのような目標を掲げてそれに向けて学修を促すかという議論で、キャップ制を進めるべきだというコンセンサスを取りながら議論を進めているところです。
崎元委員長	日本の大学生の講義時間を含めた1日の平均学修時間は4.6時間です。2、3コマの授業に出ればその時間はクリアできます。いかに自ら学修する時間が確保されていないかがわかります。そういうことも含めて議論をしていただければと思います。 また、 <u>64</u> の保健センターについてですが、カウンセリングや保健師の増員をされており、必要なことをきっちりされていると思いますが、発達障がいのある学生への対応については、どのようにされていますか。

古賀学長	<p>一頃に比べるとそういった相談が少なくなってきた印象がありますが、入学時に配慮が必要な方はお知らせくださいということを案内しています。その後、保健師やカウンセラー等で対応するようにしています。障がいのある学生の教育の機会をできるだけ確保するように努めており、個々の状況に応じた指導を図っています。</p> <p>他にも、身体的なハンディキャップを持った学生についても、教職員の共通認識を図り皆と一緒に授業を受けることができるような体制づくりに取り組んでいます。</p> <p>人数はそう多くはませんが、時間のかかる学生がいることは認識しています。</p>
崎元委員長	<p>ありがとうございました。他に委員の皆さんありませんでしょうか。先ほど来、理事長はじめ英語力、海外、国際的ということで新しいプロジェクトを始められるということで大変期待をしております。</p> <p>私自身は次のステップとしてどんどん海外に放り出す。そういうための奨学金を給付するといったことも考えていただければ、より推進できるかと思えます。</p> <p>それでは、本日のヒアリングはこれで終わらせていただきます。どうもありがとうございました。</p>
<p>議題（４）その他（平成 25 年度年度計画について）</p>	
崎元委員長	次に、議題（４）「その他」について事務局から説明をお願いします。
事務局	資料4により県立大学の平成25年度の年度計画について説明。
崎元委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>本日の議題については、以上ですが事務局から年度評価の今後の進め方について説明がありますのでお願いします。</p>
事務局	<p>長時間の御審議、誠にありがとうございました。</p> <p>今年度は第2期中期目標の初年度の年度評価でした。</p> <p>事前に資料をお読みいただく時間が短く、御迷惑をおかけしました。</p> <p>また、本日は、時間に限りがある中での御審議ということで、十分な御発言ができなかったり、後ほどお気づきになる点もあろうかと存じます。</p> <p>この件につきましては、後日、事務局から別途意見照会させていただきます。御意見は7月22日(月)を締切とさせていただきます。郵送、FAX、電子メールのいずれかで御回答ください。</p> <p>なお、今後のスケジュールにつきましては資料1の2ページに「今後のスケジュールについて」のとおりとなります。</p> <p>本日の御意見に、追加でお寄せいただいた御意見を加え、次回の評価委員会では、そのとりまとめ結果を踏まえた評価書案を御提案したいと考えておりますので、よろしくをお願いします。</p>
事務局	<p>引き続き、事務局から次回の評価委員会の開催について、御連絡申し上げます。</p> <p>次回の委員会は先に御案内のとおり平成25年8月7日(水) 午後1時30分から開催させていただきます。よろしくをお願いします。</p> <p>事務局からは以上です</p>

崎元委員長	<p>それでは、本日の会議はこれもちまして閉会いたします。</p> <p>委員の皆様、円滑な議事進行に御協力をいただき、ありがとうございました。</p>
-------	--